

# ひまわり メッセージ

17号

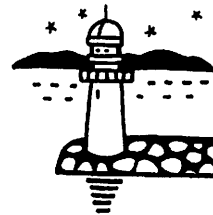
2012. 8. 7.

西濃圏域  
発達支援センター

ひまわり

発行人：中野たみ子

## 夏休みの 宿題



「先生、お忙しそうですね」と、よく言われます。「そうですね、忙しいですね」と応えつつ自分の心の余裕のなさを見透かされているようで、何とも情ない気持ちになってしまいます。

久しぶりに終日家で過ごし、片づけ始めると、読んでいない本が気になり、そうだと、手紙の返事も、送っていたたいた物の礼状もまだだったし、研修会の資料も作っていない……等々、次々とやっけていないことが浮かんでくる、頭の中がパニック状態になってしまいました。そして、ああ昔もこんな思いをしたことがあったなあと、小学生の頃に夏休みの宿題ができませんにあせったことを思い出しました。

夏休み中に昆虫採集か植物採集をしなくてはいけないかったのに、どちらもできておらず、お盆を過ぎてもどうしよう……と心はあせるのに取りかかれず、夜も眠れずに幾晩も過ぎました。思いきって母に言うのと、「早くしないから、もうシジミチョウウしかいないでしょう。植物だって、秋の草になっていりゃやないの……」と、こっぴどく叱られたものです。しかも母は手伝ってくれず泣きながら押し花をしたことを思い出します。

子どもたちは、今、どんな夏休みを送るのでしょうか。昔ほど宿題は多くないようですが、それでもできていない子の心中を思ってしまうます。やうなくてはいけないと思ってもできない時、急げているという目で見られ、「もっと頑張ら……」と声をかけてもらっても辛いものです。

私がこの年齢になっても、自分で予定を埋めて忙しくしているのは、急げていると思われたくないという心のあらわれでしょうか……。

もう、立秋になろうとしています。時は全ての人の上に平等に過ぎっていきます。

# 記憶について



夏休みに入って、子どもたちはどのように日々を送っているでしょうか？、学校へ行かなくてはならないという心の重圧から解放されている子もいるでしょうし、友だちと遊ばなくてつまらないなあと感じている子もいるでしょう。でも、もう夏休みも折り返し点が近づいています。一学期に学んだことを、忘れてはいないでしょうか？、私は、最近、人の名を忘れることが多くなりましたが、今回は、記憶について考えてみることにしました。

人間の全ての行動や運動や認知などは、もちろん脳の働きによるものですから、記憶というのも、当然脳の働きによるものです。そして、中でも「海馬<sup>かいば</sup>」という脳の部分が記憶をつかさどっているということとは、よく知られています。

しかも、記憶には様々な種類があります。

## ① 体でおぼえる記憶

手続き記憶とか技の記憶とも呼ばれ、たとえば自転車の乗り方とか、そのやり方を意識しなくてもできることがあります。水泳でも、たとえ十年やっていなくても、スピードなどは落ちていても、その動きは体がおぼえています。この記憶には小脳も関係しているようです。

## ② 頭でおぼえる記憶

陳述的記憶と言われるもので、頭でおぼえ、覚えておくこと。これはや図形などではっきりと意識的に表現できる記憶のことで、⑦出来ごと記憶と①意味記憶に分けられます。

## ⑦ 出来ごと記憶は、小学二年生の時に大げがをしたと

か、先月に野球の試合で勝ったとか、「くを覚えていますか？」と聞かれて答えられる記憶です。

## ① 意味記憶は、くり返し学習して覚えた知識のこ

とで、関ヶ原合戦は一六〇〇年だったとか、西軍の将は石田三成だったとかいうもので、「くを知っていますか？」と聞かれて答える記憶のことです。

そして、出来ごと記憶も意味記憶も、ことばで記憶してことばで表現する「言語的記憶」と、ことばでは表現できないけれども絵やパターンでは、きりとおぼえていゝる「非言語的記憶」があります。

では、時間の長さで分けてみましょう。

短期記憶……たとえば電話をかけたかと思つたときには番号が思い出せずに電話帳を見てかけるといふことは、よくあります。そして、その後は忘れましようといふ記憶です。言ってみれば、短い時間だけおぼえていれば、いいものです。

近時記憶……短期記憶よりも時間的に少し長いもので、たとえば「昨日、〇〇へ行った」とか最近の記憶です。

遠隔記憶……近時よりも、もっと長く、例えば「去年の旅は楽しかった」といふような記憶のことですが、近時記憶との明確なちがいについて定説はないようです。長期記憶とも言われます。

ただ、海馬を損傷した人がどうなるかというところ、短期記憶や近時記憶はすっかりなくしてしまつて、ほんの

少し前のことでも思い出せないことですが、遠隔記憶のことは覚えていゝるさうです。このことから、海馬は比較的新しい記憶と関係があるらしいと考えられていゝます。年を経ると昔のことは思い出せるのに、最近のことできごとや、朝の食事のことなどすっかり忘れてしまふといふのは、海馬の働きに関係しているといゝえますね。私など、欠席の子どもの連絡が入つたときに、すぐ忘れてしまふようになったので、要注意だと思つていゝます。

ただ、記憶がどのように貯えられるかといふことについては、まだわかつていゝないようです。脳の働きについてもわかつてくると、記憶のメカニズムも、もっとはつきりしてくるのかもしれないね。

記憶の中で不思議だなあと思ふのは、人の顔の記憶です。赤ちゃんがママの顔を識別できたり、私たちが人の顔の特徴もとらえることができたりするのは、どうしてかなあと思ひませんか？

人の顔をおぼえるには、専門の領域があるのださうです。それは、側頭連合野といふところにあるさうです。その部分が損傷されると、人の体の部分の違ひは分か

るのに、顔で区別できなくなってしまうつそうです。不思議です。

私の昔の教え子の青年で、とても人なつこい人かいます。Ｔさんは、時々学園にも訪ねてきて、「ヤア、先生、久しぶりやね。元氣やた？、僕、先生に会いたいなあと思ってる……」と笑み満面です。偶然どこかで出合っても、もちろん、なつかしきつうに話しかけてくれます。ところが、Ｔさんは、私の顔は知っていて、なつかしく思っているのに、私の名前は思い出しません。私がいじわるをして、「Ｔさん、先生の名前、おぼえてる？」と聞くと笑って頭をかきながら、「えーっと……先生、昔よく遊んだね。キャンプも楽しかったし、魚つかまえたし……」ほう、先生、今、言えそうなんだけど……」と、言うのです。「中野先生だったのでは？」と言うと、「そうそう、今、僕、そう言おうと思っと思ったんや」と、ちよつと今、名前を忘れていたかのようによ答えるのですが、Ｔさんは実は顔と名前がなかなか結びつかないのです。彼は顔の区別はできるので、多くの人名の中から、必要な名を取り出してくるのができないわけです。

実は、私たちは、日々の生活の中で、自分の記憶の中にあって、今、必要なものを取り出して問題を解決していきます。これを「ワーキングメモリー」と言います。

これは日常の様々な場面で使われます。たとえば私が買物に行くと、一ニ五円のお菓子を买买つて二〇〇円出したとします。そうすると七五円、おつりが出るということを暗算で計算しますね。これは、一ニ五円と二〇〇円を記憶しておかないと出来ないことです。しかも、暗算で答が出せれば、そのことは忘れてしまってもいい事柄であるわけです。

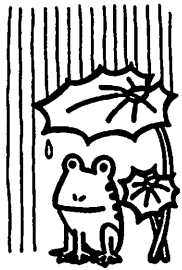
会話でも、そうですね。相手の言っていることを記憶しておかないと、その相手の話題に関することは返すことはできません。

つまり、ある特定の場面で、私たちは過去数分間の間、このことを能動的に記憶しておいたり、長期記憶の中からおぼえておく。そして用が済んだら忘れてしまおうということをしているわけで、これをワーキングメモリーと言っているわけです。

短期記憶とちがうのは、短期記憶はある一定期間おぼえていて、必要なものは長期記憶として貯えられていくものですが、ワーキングメモリーは、暗算や会話など、ある特定の作業を行うために必要な短期記憶や、脳に貯えられている長期記憶を一時的にとり出して、作業が終わったら消滅させてしまうものなのです。

知能検査の中に数字の順唱と逆唱があります。数字を検査者が言った通りに言うのが順唱で、逆唱は反対から言う課題です。たとえば、「三・四」と言われて「三・四」と答えるのが順唱で、「四・三」と答えるのが逆唱というわけです。順唱は、言ってみれば短期の記憶にあたりますし、逆唱はワーキングメモリーにあたるわけです。

このように私たちは日常の様々な場面でワーキングメモリーを使っています。この働きは、脳の前頭連合野で行われているのだそうです。



ところで、自閉症のお子さんの中には、フラッシュバックとかタイムスリップ現象といったものがあることはご存知でしょうか？

自閉症のお子さんは、一対一対応で物事をおぼえていくことが得意なのですが、そのために嫌な記憶もさういう覚え方をしています。ある状況下で起きた嫌な記憶は、同じような状況下で突然思い出されてしまうのです。

私の教え子のSさんは、学校で先生がやってはいけないとおっしゃったことをやっている友だちを見つけて、注意をされました。でもうまくことばで言えずに、どうやら実力行使をしたようです。先生はたまたま、その場面を見られてSさんに注意されたそうです。しかし気持ちがおさまらないのはSさんです。だって先生かやってはいけないとおっしゃったことをやっている友だちに注意したわけで、自分で自分が先生に叱られるのか合点がいけないわけです。気持ちがおさまらず、Sさんは暴れて、教室の水槽をひっくり返し、大さわぎになりました。

騒ぎを知ってかけつけて下さった先生方は、けががな

かったか心配して、「大丈夫？」と口々に気がつかず下  
やったのですが、Sさんの心の中では、「大丈夫」という  
ことは、その時の悔しみの思いと見事にマッチングし  
てしまいました。

それ以来、「大丈夫」ということはでSさんはパニック  
をおこすようになり、それから何年もの間、苦しむこと  
になりました。Sさんは、キャンプに来ると、私の所にや  
ってきて、「先生、お願いがあります。僕は『大丈夫』  
ということばをかけられるとパニックになります。だから  
言わないようにして下さい」と言うのです。「わかりま  
した。できるだけ言わないようにします。でも『大丈夫  
』とということばは、決して悪いことばでなく、相手の人  
のことを思っていることばです。だから、先生も言うか  
もしれません。『大丈夫は良いことば』と思うように  
できるといいね」。こんなやりとりが何年あったでしょう  
か。

Sさんは小さい子も苦手です。特にかん高い声の女  
の子はとてつもなく苦手です。今、お店に勤めているSさん  
は、小さい女の子が店に来ると、さり気なくその場を

はなれるそうです。

自閉症の人たちの生きづらさに私たちは気が付かない  
ことも多いのですが、記憶にしても感覚にしても人  
それぞれであることを知っているだけで、自分の接し方に  
工夫ができるのではないだろうか。

子どもたちとかかわっている時、「この子は困っている  
んだな……」と思うことはあります。記憶して覚えていく  
力はもっているのに、ワーキングメモリーが弱い子どもた  
くさんいます。一人ひとり異なる子どもたちの困り感をしっか  
り理解していくことが、おそらく教育や療育のスター  
トだろうと思います。自分に何ができるかなあ……と考  
えながら、又、一日が過ぎています。

お知らせ



へセンター親の会へ

9月11日(火)は、いつもの9:30ですが、  
10月9日(火)は中野の出張のために、  
午後一時30分からおねがいします。